長野県短期大学紀要　第51号　31-41頁　1996年12月
Journal of Nagano Prefectural College, No. 51, pp. 31-41, December 1996

女子大学生の健康観形成に影響を与える要因
—日中の比較検討—

張　勇*

Fundamental Factors that Influence Young Females' Thoughts of Health
—A Comparative Study of Chinese and Japanese students

キーワード：日中比較，ライフスタイル，健康意識，自然観，生命観

Ⅰ．緒言

健康は人生の目的ではないが，人生を幸せにおくるための大切な条件である。このことはたとえ国が違っても，共通した価値観と言っていいであろう。しかし健康をどのようなものと解釈するかは，時代や国によって必ずしも一定ではなかった。

現在の日本においては，現代科学の恩恵を享受した快適なライフスタイルを手にいれたことの代償として，運動不足，肥満，成人病，ストレスなど，健康問題に，また多くの新たな問題をかかえることになった。これからの日本の健康問題がどのような方向に向かっていくのか，多様化，個性化，複雑化する現代社会の中では，将来の見通しは単純ではない。

中国の伝統的な健康観は，人間も自然の一部であり，自然に同化することによって健康になると教えている。この伝統的な健康観に基づいて，現在も生活のあらゆる場面で，独特の健康法が生きているのである。もっとも現在の若者は西洋の文化を取り入れることに熱心であり，長く伝承されてきた独自の文化も，将来も同じ形で継承されていくのか，これもまた予測するのは容易ではない。

日本において健康観や体力を国際的に比較検討した研究は，あまり多くはないが，自文化を見直すという観点からも貴重なものと思われる。日本と中国はある面では共通しているが，またある面では異なっており，それぞれが長く培われてきた国民性を反映している点が興味をひくところである。体力についての解釈も，日本においてもっとも広く理解されているのは，福田や猪飼による分類であるが，中国においては体質の中に含まれておりであり，その概念の中には，人間の質と量の全てを含むというように，日本より広い内容を包括している[1]。また健康法についても，日本ではフィットネスを中心とした，身体を動かす動的な運動が主であるが，中国では気功や大極拳など，どちらかといえば静的な運動が盛んである。このことも中国では，人間の本質は精神であり，まず精神を整えることが健康の基本と考えているからである。このように人間とは何か，健康とは何かということについても，その理解は日本と中国では，異なっている点がある[2)3)4)]。

*〒380　長野市三輪8-49-7　長野県短期大学
*Nagano Prefectural College, 49-7 Miwa 8-chome, Nagano 380, Japan.

次代を担う大学生が，生涯にわたる健康的なライフスタイルを確立することの重要性はいうまでもない。そのことは本人のみならず，社会的にも大きな意味があることである。そしてその際どのような基準に基づいて，そのライフスタイルを選びとるのか，根底にある価値観や意識を探ることは興味深いことである。

今回の研究の目的は，それぞれ異なった自国の文化の中で生活し，教育を受けてきた若者が，その過程でどのような健康観，自然観，生命観を培ってきたのか，また伝統的な健康観，自然観，生命観をどのように評価し，どのように受け入れているのか，それらを比較分析することである。

日本における現在のそして将来の健康問題の解決にむかって，中国の健康意識を探ることは，新たな健康観確立の手がかりになるのではないかと思われる。

II．研究方法

1．調査対象と調査方法

中国側の調査は，上海市の復旦大学及び上海大学，日本側の調査は，東京都の津田塾大学及び横浜市の鶴見大学の計四大学の，いずれも一年次在学中の女子学生である。人数は中国側が，復旦大学147人，上海大学81人の計228人，日本側が津田塾大学113人，鶴見大学127人の計240人である。

これらの学生に，健康観，自然観，生命観，倫理観，生活観，人生観などの基本的な思考を問う意識調査を実施した。調査は質問紙によるものである。

調査の時期は，中国，日本とも1995年10月から11月である。

測定値の集計，分析には，統計解析ソフトSPSS for windows vor. 6.01を用いてクロス集計を行った。有意差の検定はカイ２乗検定を用い，５％水準で判定した。

2．調査項目

質問項目の具体的内容は表２に示した。質問は健康観を問うもの，自然観を問うもの，生命観を問うもの，倫理，宗教観を問うもの，生活，自立，人生観を問うものを適宜に配してある。回答は各質問について，質問をまったく肯定する場合は「はい」，まったく否定する場合は「いいえ」，その中間は「どちらとも言えない」として３段階で回答するようにした。

回答は無記名であるが，個人のプロフィールを知る手がかりとして，年齢，身長，体重，及びこれまでの主な生育地をたずねた。

III．結果

1．被検者の特性について

調査をした両国の女子大生の個人的な特性は，表１のとおりである。

表１　調査学生の身体的特性

国 / 項目	中国			日本			差
	人数	平均値	標準偏差	人数	平均値	標準偏差	
年令　才	225	19.17	0.80	239	19.02	0.67	*
身長　cm	225	161.66	4.71	233	158.35	5.22	**
体重　kg	222	50.49	4.96	209	50.38	5.74	
B.M.I	222	19.31	1.55	208	20.07	2.05	**

*　５％水準
**　１％水準

表2　質問項目の一覧と回答状況

質問項目	国別	人数 人	肯定 %	中間 %	否定 %
1．現在の自分の体力に自信があります	中国	225	61.8	18.2	20.2
	日本	239	17.2	38.9	43.9
2．睡眠は足りています	中国	227	52.0	13.2	34.8
	日本	238	38.2	29.8	31.9
3．食欲はあります	中国	228	82.0	8.8	9.2
	日本	240	85.0	11.7	3.3
4．便通は規則的にあります	中国	228	54.8	16.7	28.5
	日本	239	40.6	36.4	23.0
5．いつも食事の内容に気をつけています	中国	225	43.1	20.9	36.0
	日本	240	29.2	42.5	28.3
6．積極的に運動をしています	中国	228	45.6	23.7	30.7
	日本	240	16.3	28.8	55.0
7．規則正しい生活をしています	中国	227	70.0	15.9	14.1
	日本	239	25.5	36.0	38.5
8．疲れたらすぐ休養をとるようにしています	中国	226	65.5	14.2	20.4
	日本	240	55.4	27.1	17.5
9．将来の自分の健康に自信があります	中国	228	68.4	20.2	11.4
	日本	239	15.1	51.0	33.9
10．本やＴＶの健康に関する情報に関心があります	中国	228	42.5	21.1	36.4
	日本	239	31.8	41.0	27.2
11．インスタント食品をよく食べる方です	中国	228	33.3	13.6	53.1
	日本	240	19.6	27.5	52.9
12．努めて自然にふれるようにしています	中国	228	32.9	25.0	42.1
	日本	240	25.0	47.9	27.1
13．自然破壊は人間にとってやむを得ないことです	中国	226	21.2	7.5	71.2
	日本	240	5.4	45.0	49.2
14．世の中はもっと快適になるべきです	中国	227	68.7	14.5	16.7
	日本	240	34.2	48.8	17.1
15．昔からの季節の習慣を自分も守りたいと思います	中国	228	46.9	16.7	36.4
	日本	240	64.6	31.3	4.2
16．住むなら便利な都心に住みたいと思います	中国	228	55.3	10.5	34.2
	日本	240	30.4	51.7	17.9
17．科学が進めば大体の災害を防ぐことができます	中国	228	34.2	14.5	51.3
	日本	239	3.3	31.4	65.3
18．自然保護員のような仕事をしてみたい	中国	227	17.2	16.7	66.1
	日本	239	15.5	43.1	41.4
19．山中の小屋で一人暮らすのも楽しいと思います	中国	228	71.1	13.2	15.8
	日本	240	26.7	19.2	54.2
20．災害は人間が自然破壊をしたことへの報復である	中国	228	52.6	20.2	27.2
	日本	240	40.4	47.9	11.7
21．脳死は人間の死であると思います	中国	227	45.8	9.3	44.9
	日本	240	30.0	50.0	20.0
22．長寿は大変によいことであると思います	中国	227	21.6	32.6	45.8
	日本	240	35.8	52.1	12.1

23. 好きなことができれば短命でもいいと思います	中国	228	78.9	3.9	17.1
	日本	240	51.3	35.8	12.9
24. 自分には宗教や信仰は必要ありません	中国	226	28.8	24.3	46.9
	日本	240	42.9	43.8	13.3
25. 来世（死後の世界）はあると思います	中国	228	32.5	25.4	42.1
	日本	240	30.8	47.1	22.1
26. ほかの人より信心深い方だと思います	中国	227	36.1	34.4	29.5
	日本	240	16.7	38.3	45.0
27. 人間の生命の操作は神のみがすることです	中国	228	7.0	9.6	83.3
	日本	240	14.6	34.2	51.3
28. 自分は罪ある存在であると思います	中国	228	4.4	7.5	88.2
	日本	240	33.3	48.3	18.3
29. 看護婦さんのような仕事が好きです	中国	228	8.3	10.5	81.1
	日本	240	15.0	37.5	47.5
30. 報酬がなくても他人のために何かしたいと思います	中国	228	54.4	33.3	12.3
	日本	240	41.3	47.1	11.7
31. 女性の幸福は結婚相手による所が大きいと思います	中国	227	78.4	9.7	11.9
	日本	240	41.7	37.5	20.8
32. 現在の自分に十分満足しています	中国	227	26.9	16.3	56.8
	日本	240	20.0	38.8	41.3
33. 今，最も信頼している人は両親です	中国	227	70.0	9.7	20.3
	日本	239	46.4	33.9	19.7
34. 女性に生まれた事を残念に思ったことはありません	中国	228	59.6	14.9	25.4
	日本	240	36.3	25.0	38.8
35. パーティとか社交的な集まりが好きです	中国	228	41.7	28.1	30.3
	日本	240	42.5	41.7	15.8
36. 家族の団らんが最も楽しい時間です	中国	228	67.1	21.1	11.8
	日本	240	30.4	46.7	22.9
37. 人に知られなければ少し悪いことをしてもいい	中国	228	29.4	33.8	36.8
	日本	240	15.0	42.1	42.9
38. 危険や困難からは逃げ出したい方です	中国	228	11.8	28.5	59.6
	日本	240	53.8	35.4	10.8
39. 今まで，恋愛をしたことはありません	中国	227	66.5	9.7	23.8
	日本	240	8.8	10.0	81.3
40. もう少し容姿が良かったらと思ったことはありません	中国	227	5.7	5.7	88.5
	日本	240	2.1	14.2	83.8
41. 私にとって人生は価値のあるものです	中国	228	90.4	8.3	1.3
	日本	240	68.3	29.2	2.5
42. 女性も性的な自由を持つべきだと思います	中国	228	67.5	19.7	12.7
	日本	240	49.6	48.3	2.1
43. 他人が自分をどう思おうが気にしない方です	中国	228	16.2	24.1	59.6
	日本	240	13.3	42.1	44.6
44. 私の学校生活は今までずっと楽しかった	中国	228	36.4	28.1	35.5
	日本	239	32.2	40.6	27.2

注：調査した全項目について，中国と日本の間には５％水準で有意差が認められた。

2．質問項目と中国，日本の回答状況の一覧

調査をした質問項目の一覧と，それに対する両国の回答の様相を表2に示した。

3．女子大生の基本的な生活意識について

調査項目の中で，肯定率もしくは否定率の高かった項目を，国別に上位10項目ずつとりだしてみた。(質問項目は表現を簡潔にして表記した)

中国順位

1　質問41　私にとって人生は価値がある　肯定　90.4%
2　質問40　もう少し容姿が良かったらと思ったことはない　否定　88.5%
3　質問28　自分は罪ある存在である　否定　88.2%
4　質問27　人間の生命の操作は神のみがすることである　否定　83.3%
5　質問3　食欲はある　肯定　82.0%
6　質問29　看護婦のような仕事が好き　否定　81.1%
7　質問23　好きなことができれば短命でも良い　肯定　78.9%
8　質問31　女性の幸福は結婚相手によるところが大きい　肯定　78.4%
9　質問13　自然破壊は人間にとってやむを得ない　肯定　71.2%
10　質問19　山中の小屋で一人暮らしても楽しいと思う　肯定　71.1%

日本順位

1　質問3　食欲はある　肯定　85.0%
2　質問40　もう少し容姿が良かったらと思ったことはない　否定　83.8%
3　質問39　今まで恋愛をしたことはない　否定　81.3%
4　質問41　私にとって人生は価値がある　肯定　68.3%
5　質問17　科学が進めば大体の災害は防げる　否定　65.3%
6．質問15　昔からの季節の習慣を自分も守りたい　肯定　64.6%
7　質問8　疲れたらすぐ休養をとるようにしている　肯定　55.4%
8　質問6　積極的に運動をしている　否定　55.0%
9　質問19　山中の山小屋で一人暮らしても楽しいと思う　否定　54.2%
10　質問38　危険や困難からは逃げ出したい方です　肯定　53.8%

これからだけみても中国は画一的に同じような回答をしている様子がうかがえる。中国では80%以上の者が同意した項目が6項目，70%以上では12項目，60%以上では20項目であった。同じ基準で日本をみてみると，80%以上が同意した項目が3項目，60%以上をとってもわずかに6項目である。日本側の上位3項目は，同じ時期に調査をした長野県短大の一年生もまったく同様の回答をしていることから[5]，これらは居住地などに関わらず，日本では一般的な女子大生の現状とみなすことができると思われる。この3項目をのぞけば日本側の回答は個別にばらつきがあり，中国よりは多様な生活や，思考をしていることが推察できる。

IV．考察

この両国の結果を比較する事で明らかになった

中国の女子大生の思考の特徴，日本の女子大生の思考の特徴について，いくつかの項目に分けて差異と類似点などを述べてみる。

1．両国の類似点と相違点の特徴

中国で90％以上のものがものが同意した質問41「私にとって人生は価値がある」は，中国に比較すれば低いとはいえ，日本でも68.3％で第4位の支持率であった。自分の人生を価値がないと否定したものは，両国を合わせても1.9％と少数であり，最近の日本の若者について，無気力や無関心などのしらけが指摘されているが，基本的には自分の人生を価値あるものと評価，認識していることはうかがうことができる。このことは社会的にも意味のある結果である。

同じく質問40「容姿が良かったらと思ったことはない」これを肯定したものは中国が少し多いものの，両国全体でも3.8％と少数である。すなわち国は違っても19才の女性として，自分の容姿や容貌に対する関心は両国ともかなり高いということができ，より美しければよかったと思うのは当然の願いであろう。

次に質問3「食欲はある」も同様で，否定者，すなわち食欲がないというものは少ない。年令が19才と若く健康であれば，当然食欲はあるのが普通であると考えられるが，全体的な数値の上からは少なくても，中国で約1割のものが食欲がないと答えている点は，少し問題があると思われた。

この3項目については前年度に調査をした長野県短大生も同じような回答をしており，質問41には71.2％，質問40には89.7％，質問3には87.8％が同意している。

この3項目が中国と日本の共通点とすれば，最も大きな相違点が，質問39「今まで恋愛をしたことはありません」に対する回答である。日本ではこれを否定したものは81.3％，肯定したものは8.8％で，日本では19歳までに8割以上のものが恋愛を経験しているということになる。しかし中国では経験があるというものは23.8％，反対にないというものが66.5％で，日本とはだいぶ様相が違っている。この理由の一つに，最近は変わったとはいえ，中国の社会には精神的な解放感がまだ少なく，自由な恋愛を肯定するという雰囲気があまりないことが考えられる。個人の恋愛感情とは別に，社会的な容認がまだ恋愛に対しては与えられていないという背景を反映しているのではないと思われた。

2．健康に関して

質問1から質問10までは主に健康に関する項目である。健康状態に関しては有意に中国の方が良いという結果である。一つ一つの項目を比較しても中国の方が望ましい回答をしており，得点化して集計した結果でも5％水準で有意差が認められた。睡眠，便通，食事，運動など，どれも中国の方が望ましく，その結果が現在そして将来の健康に対する自信となって現われていると思われる。

中でも大きな差は，質問1，6，7などである。質問1「現在の体力に対する自信」について，自信があると答えた者が中国では61.8％あったのに対し日本では17.2％と非常に少なかった。反対に自信がないという者は中国20.2％，日本43.9％である。自己の体力に対するこのような評価を招いた理由は，他の回答の中にも手がかりを見つけることができる。

質問6「積極的に運動をしている」にたいし運動をしていると答えた者が，日本では16.3％と中国の三分の一にすぎず，逆にしていない者が55.0％に上った。このように日頃運動をしていない生活をおくっているという意識が，日本における体力の自信のなさの一因となったと思われる。また日本では，小，中，高，大学と長ずるにしたがって運動から遠ざかる傾向があるが，中国では運動習慣があまり変わらないため，大学生になると日

本の方が運動不足になる傾向があるという報告もある[6]。さらに，中国の場合大学の体育実技は，国家統一のカリキュラムで行われているが，その内容は日本で通常行われている授業より，かなり体力トレーニング的な色彩が濃いものである。

他に大きな相違があったのは，質問7「規則正しい生活をしている」で，これを肯定した者が中国では70.0%あったのに対し，日本では25.5%と少なかった。この項目については，前回調査した長野でも24.4%と同様に少なく，居住地を問わず日本の女子大生の日常生活は不規則であるといわなければならない。規則正しい生活を送るように努めることによって，その意識が次第に睡眠や食事や運動といった他の項目の改善を促し，健康状態や体力の改善となっていくことと思われた。

3．自然との関わり

質問11から質問20までは主に自然観を問う質問である。この項目に対する回答の様相から中国の学生の思考を推定してみると，まず質問13「自然破壊はやむを得ない」を約70%のものが否定しながら，質問14「世の中はもっと快適になるべき」を同数のものが肯定している。自然破壊は好ましくはないということは理解はしている。しかし社会や生活の快適さも求めたいというのは，おそらく中国では実感であろう。上海は中国では大都会であるが，大都会であるが故の混雑や混迷も合わせ持っているのである。日本に比べればはるかに快適さは少ないといわなければならない。したがって，日本と同じ条件下で更なる快適さを求めているわけではないことに留意をしなければならない。

同様のことは質問18と19の間にもいうことができる。「山中の小屋で一人暮らすのも楽しいと思う」と71%が答えながら，「自然保護員のような仕事をしたくない」というものがやはり同数近くいる。これは自然と触れあうのはあくまでも楽しみとしての範囲であって，仕事としてどうかとなると拒否をするものが多いのは，中国の職業観や職業選択のシステムが違うということも考慮にいれなければならない。

これらの項目に対する日本の回答の特徴は，判断の難しさを反映してか「どちらともいえない」を選択する学生が多くなっていることである。しかし共通の傾向としては，質問15，17の回答にみられるように，「昔からの季節の習慣を守りたい」，「科学が進んでも災害の全てを防ぐ事はできない」と考えているといえる。この2項目と質問13に対する回答からは日本の学生の次のような特徴も読みとることができる。それはすなわち，「自然破壊はやむを得ない」を肯定，「昔からの習慣を守りたい」を否定，「科学が進めば災害は防げる」を肯定するものの極端な少なさである。現在の日本では環境問題は，身近かなレベルから，地球全体のレベルまで様々な分野で論じられている問題である。自然環境を守ることの重要性は，ほとんどの学生が認識していると解釈できる。さらに中国と相反する結果であったのは，質問19で日本では「山中の小屋で一人暮らしても楽しいと思う」と考えるものは26.7%と中国の3分の1ほどに過ぎなかった。

すべての項目を総合して考えると，自然保護の意識や自然の力に対する畏敬の念、あるいは伝統の保存など，日本のほうが自然に対する意識が高いということができる。しかし前にも述べたように社会の基本的な整備に関して中国と日本を同じと考えることはできない。日本でも現在のような発展を遂げてくる過程で，多くの自然破壊をしてきたことは事実であり，それに対する修正や反省を行っているのが現在であると考えられる。その点中国は，これから社会が発展を遂げようとしているところなのであり，古い伝統を多少犠牲にしても科学の力に頼って現代社会としての基盤を確保しようと考えたのではないかと思われる。

4．生命や宗教について

質問21から質問28までは生命観や宗教観に関する項目である。

日本の学生の回答は，ここでも「どちらともいえない」を選択する率が非常に高いのが特徴的である。例えば脳死，長寿，信仰，来世，原罪など判断の困難な項目が多かったことがうかがわれる結果であった。長寿の問題一つをとっても，そのこと自体の良し悪しだけを考えれば良いわけではなく，おそらく日本の老人のおかれている様々な社会的状況，それは社会の中で必ずしも老人が生きがいを持って明るく元気に暮らしているわけではないことや，加齢にともなって増えてくる病気や痴呆の問題など，様々な要素を考えあわせた結果といえるであろう。しかし，中国のようにはっきりと長寿を否定することもためらわれたのではないかとも思えるのである。

生命観について日中共通した傾向が認められたのは，質問23「好きなことができれば短命でも良い」で，これを肯定するものが両国とも多かった。調査対象である学生は平均年令19才であり，短命とはいっても具体的に死のイメージを持っていたとは考えにくい。好きなことをできる人生ということの方を優位に受け取った結果ではないかと考えられる。質問27「人間の生命の操作は神のみができる」を否定する傾向も両国に共通して認められる。これからは人間の生や死の分野にも，人間自身の考えや科学の力が介入してくることを予想しているのであろう。

中国の特徴は，上記の質問27を83％が否定したことのほかには，質問28「自分は罪ある存在である」を88％のものが否定したことである。他の質問に関する回答からも中国の学生の理性的に割り切った思考を感じることができる。ただ質問24「宗教や信仰は必要ない」を否定するもの，すなわち信仰は自分に必要と考えているものが47％おり，この数は日本の13％に比べて非常に高いということがいえる。しかしこの場合の信仰の解釈のしかたであるが，日本ではその対象は神仏であるが，中国では必ずしも宗教とは限らず，自己の信ずるもの，例えば思想や主義を信ずることも含むのである。すると中国では，生きるためには何か精神のよりどころ，バックボーンが必要と考えていると理解できる。

日本の特徴は，日本社会の持つ多様な価値観を反映してか，自分の意見を決めるのに苦労したことがうかがえるが，そのため特定の思考があまりはっきりでてはこなかった。冒頭に述べたように，脳死にしても長寿にしても，現在日本の社会において，様々の論議を呼び起こしているきわめて今日的な問題である。女子大生の意識を知る手がかりになればという目的もあったが，社会の価値観の多様性をそのまま反映した結果であった。また信仰に関しては総体的にやや関心が薄いということができるが，これも日本の社会全体が特定の信仰を持たず，宗教教育や信仰生活といったことも特にはないのが普通なので，妥当な結果であると思われる。

5．人生や生活について

1）自立度について

質問31，34，38，40，42，43，44などに対する回答から自己の確立度もしくは自立度を推定してみた。これらの項目の中で最も大きな相違があったのは，質問38「危険や困難からは逃げ出したい」にたいする回答で，逃げたいとするもの中国11.8％，日本53.8％，反対に逃げないというもの中国59.6％，日本10.8％とまったく正反対の結果であった。この点だけをみれば，中国の方が積極的，前向きということができる。しかし，質問31「女性の幸福は結婚相手によるところが大きい」を肯定したのも中国の方が多く，78.4％が同意している。日本は41.7％であるからこの差は大きいといわなければならない。

結婚生活は，男性、女性ともに相手の影響を受けるわけであるが，中国も日本も，欧米の結婚観，家庭観とは多少違い，結婚が対等の立場で成り立っているとはいい難い。この点の制約がまだ中国の方が大きいことによる結果なのではないかと思われた。同じようなことを問うものとして，質問34「女性に生まれたことを残念に思ったことがある」を尋ねたのであるが，これに対する回答にも相違が認められた。残念に思ったことがない者が中国59.6%，日本36.3%，反対に，思ったことがある者が中国25.4%，日本38.8%という結果であった。この質問からは日本の方が女性であることによって，何らかの不利益や制限を受ける率が高いと考えていることがうかがえる。逆に中国では，社会体制の違いもあって，性別による制約は日本より少ないことによるのかもしれない。質問42「性的な自由」についても，中国では肯定者が67.5%と非常に多い。日本では否定者こそ2.1%と少ないが，肯定，どちらとも言えないが半々であった。日本ではすでに自由といっても良い状態ではないかと思われるが，それ故にいきすぎた自由化に歯止めをかけたいという自制心が働いたともみえる。その点中国ではまだまだ自由という状態ではなく，この違いが数字として現れたと思われる。

総体的に個人に関する自立度という視点からみれば，中国の方がやや自立している観もある。しかし社会体制の違い，つまり多様な価値観の存在を認めているかどうかという点で中国と日本は，かなり大きな違いがある。どのような生き方も認められる日本であるが故に，なかなかはっきりした意見を持にくいという面もあるのではないかと思われた。

2）倫理観，道徳観

質問26，29，30，33，37，42などを中心にして，倫理観，道徳観を考察してみた。質問30「報酬がなくても他人のために何かしたい」という者は中国のほうが54.4%とやや多い。日本でも41.3%と少ないわけではないが，最近のボランティア活動に対する関心の高まりなどを考えると，日本のこの数はやや少ないとみることもできる。しかし両国ともこれを否定した者は10%強であるので，潜在的な肯定者としては同数ということもできる。質問37「他人に知られなければ，少し悪いことをしてもいい」を肯定する者は中国29.4%，日本15.0%，否定する者はそれぞれ36.8%，42.9%で，中国の方がやや現実的な思考をしているということができる。

道徳観に関して最も際だった相違があったのは，質問29「看護婦さんのような仕事が好き」に対する回答である。質問者の意図としては人に奉仕をする職業に対しての印象を尋ねるものであったが，日本ではともかく，中国では必ずしも正しく理解されていたか疑問であった。81.1%の者が嫌いと答えているが，この数は予想以上に大きいものであった。中国において看護婦という職業は，普通の一般的職業であり，奉仕者，聖職者，天使といったイメージの象徴ではないといえる。

3）人生や家族について

質問33「両親への信頼」，質問36「家族の団らん」からみた家族との結びつきに関しては，中国の方がずっと密接である事が分かる。70.0%の者が両親を最も信頼していると答え，67.1%の者が家族の団らんが最も楽しい時間と答えている。これに比べると日本の肯定率の低さが問題となるところである。しかし質問は2問ともに「最も」信頼，あるいは楽しいと聞いたものであるので，日本の場合も必ずしも否定しているものではない。日本では，この年令の友人関係はかなり濃密なもので，おそらく両親や家族は「最も」というレベルではないのかもしれない。このことは自立度とも関連があるとも思われるが，両親や家族に対す

る親密さは，中国の場合必ずしも依存度というものではない。対象となった学生は全員が一人っ子であり，両親との関係は大変に密接なのである。このような家族構成の違いも考慮しなければならない。

質問32「現在の自分に満足している」これを肯定した者の数は中国も日本も大きな差はない。否定した者は中国56.8%，日本41.3%と両国共に満足していないという者の方が多い。これは自分に対する向上心や欲求の高さによるものであろう。中国の場合は自分に満足はしていないが，それは女性である事とは別の問題であると認識しているが，日本の場合ははっきりとした分離の傾向はうかがえない。しかし質問41の回答にみられるように，自分の人生は価値があると多くの者が認識をしている事は，これからの人生にとって明るい展望であった。

V．まとめ

1．身体的な特徴は，平均身長及び体重は，中国161.7±4.71cm，50.5±4.96kg日本158.4±5.22cm，50.4±5.74kgであった。体重は同じであるが，身長は有意に中国の方が高かった。したがってBMIも，中国19.31±1.55，日本20.07±2.05であり，中国の方が体型的には細長型といえる。

2．中国は，社会の価値観が統一されている事を反映してか，かなり類似した思考をしているといえる。日本は逆に，社会に多様な考えや現象が混在している事によって，個人の考えがまとまりにくいといえる。

3．両国とも共通していたのは，自分の人生は価値がある。もう少し容姿が良かったらと思った事がある。食欲はあるなどである。また相違点は，今まで恋愛をした事はありませんにたいして，中国はないと答える者が多く，日本ではあると答える者が多かった。同じく，山中の小屋で一人暮らしても楽しいと思うかに対して，中国では楽しいと答える者が，日本では否定する者が多かった。

4．健康状態に関しては，明らかに中国の方が良かった。睡眠，便通，食事，運動どの項目も有意によい。規則正しい生活を送っている事によって，体力に対する自信もある。日本では自己の体力を否定的にとらえている点が問題であった。

5．自然に対する関わり方では，日本の方が意識が高いといえる。季節の習慣，自然保護，科学過信への疑問など，問題意識をもっている。しかしこの点に関しては現在の社会の快適度や便利度において中国と日本では大きな差があることを考慮しなければならない。

6．生命，宗教，倫理などに関しては，中国は現実的あるいは論理的に割り切った思考をしているといえる。日本はどちらかといえば心情的あるいは感情に重きをおいた判断をしているということができる。

今回の調査結果をみかぎり，意識の面では，中国と日本は類似点よりも相違点の方が大きいという結果であった。この相違が根本的に何に起因するものなのか，興味のあるところである。両国において個人の健康観がどのように形成されていくのか，その過程でもっとも大きな影響を受ける要因は何なのか，さらに調査をおこなっているところである。

参考文献

1) 陸　大江，波多野義郎（1995）中日両国における体力に関する研究，Circular. No. 56：31-32.
2) 湯浅泰雄（1994）身体の宇宙性，岩波書店，PP. 32-40.
3) 張　勇（1996）中国伝承の身体鍛錬法・伝統の中の革新，体育の科学。Vol. 46：204-207.
4) 施　杞，呂　明方（1990）中国養生全書，学林

出版社，pp. 456-460.
5）伊藤克子，張　勇（1996）女子大学生のライフスタイルを決定する基本的な意識について，鶴見大学紀要第33号4部.
6）須田　力ほか（1992）中国大学生の身体運動に関する一考察，体育学研究，Vol. 36. No. 4：p 359-360.
7）園田恭一（1991）生活の在り方と健康，Health Sciences. Vol. 7. No. 2.
8）丸山敏秋（1987）東洋における適応の考え方について，Health Sciences. Vol. 3. No. 1.
9）柳井春夫ほか（1991）質問紙をめぐって，保健の科学 Vol. 33.
10）葉　恭紹ほか（1986）中国における児童青少年衛生の発展概況について，学校保健研究 Vol. 28.
11）張　勇（1990）日中両国における大学生の体格・体力に関する比較研究。東京体育学研究。Circular. Vol. 21：p 109-114.